



株式会社メディアドゥ

2027年2月期 2Q決算説明資料

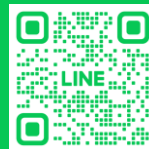
証券コード：3678

Agenda

1.決算ハイライト	4
2.業績推移	12
① 連結業績	
② 電子書籍流通事業	
③ 戦略投資事業	
3.成長戦略	30

メディアドゥ公式LINE開設

IR情報や最新ニュースなど当社の最新情報をお届けします



Executive Summary

株式会社メディアドゥ
2027年2月期 2Q決算説明資料

- 売上高は、電子書籍流通事業の成長とSeven SeasのPL連結開始により**増収**
- 営業利益は、減益となるも電子書籍流通事業の想定以上の成長により減益幅は小幅に

売上高	583.1億円	前年同期比 +8.3%
EBITDA	20.1億円	前年同期比 +1.1%
営業利益	11.8億円	前年同期比 -15.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5.0億円	前年同期比 -61.6%※

※ 26/2期1QのMyAnimeList(MAL)売却益計上、27/2期1QのSeven Seas買収費用計上による影響

電子書籍流通事業

- ✓ 売上高 : 取次事業の前年比成長率は**+5.1%**
- ✓ 営業利益 : 減益幅は小幅に留まり、2Q単体ではYoYで増益
 - 26/2期3Qにおける利益率の高いサービス終了の影響で減益
 - 一方、キャンペーンが寄与し、減益幅は小幅に留まる

戦略投資事業

- ✓ 売上高 : 過去最高を更新
 - 2QからSeven SeasのPL連結を開始し、今期は売上高**60億円**、営業利益は**2.8億円**の寄与を見込む
- ✓ 営業損益 : YoYで損益が悪化
 - 主に26/2期3Qからの日本文芸社の業績不振及びFirebrandグループの損益悪化が影響

連結業績予想

- ✓ 連結業績予想及び配当予想の**上方修正**を実施
 - Firebrandグループの売却に伴い、親会社株主に帰属する**当期純利益を27.6億円(+15.6億円)**に上方修正
 - 業績予想の上方修正に伴い、今期の1株当たり配当予定額を40円から**55円**に上方修正

01 | 決算ハイライト

Financial Highlights

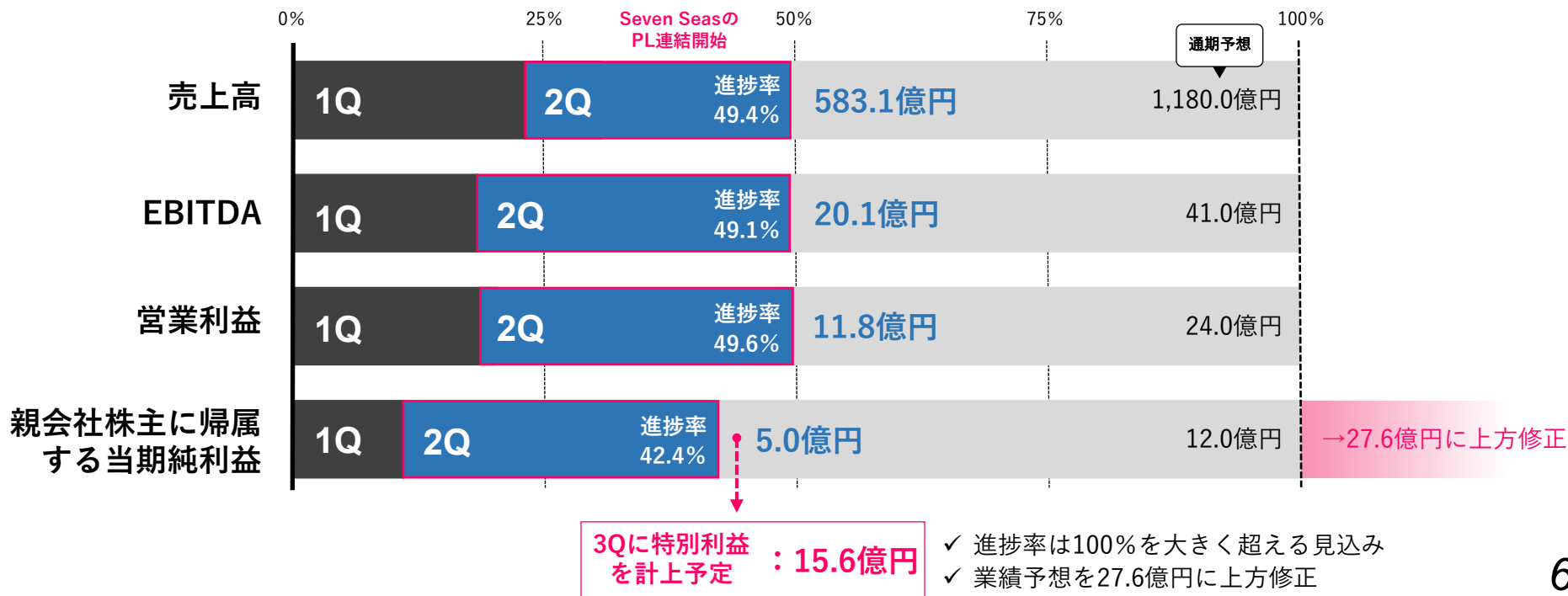
連結業績ハイライト

- ✓ 売上高 ----- 主に電子書籍流通事業の成長と2QからのSeven SeasのPL連結開始により増収
- ✓ EBITDA・営業利益 ----- 電子書籍流通事業において高利益率のサービスが26/2期 3Qに終了したことや、26/2期3Qより業績不振の日本文芸社による影響があったものの、電子書籍流通事業の好調により、期初想定を上回る着地
- ✓ 当期純利益 ----- 26/2期1QのMyAnimeList(MAL)売却益計上、2026年3月のSeven Seas買収費用計上の影響により他の利益項目に比べて減益額が大きい。3QにはFirebrandグループの売却に係る特別利益を計上予定(15.6億円)

	26/2期 2Q累計	27/2期 2Q累計	前年同期比
売上高	538.6億円	583.1億円	+8.3% (+44.5億円)
EBITDA	19.9億円	20.1億円	+1.1% (+0.2億円)
営業利益	13.9億円	11.8億円	-15.0% (-2.1億円)
親会社株主に帰属する当期純利益	13.2億円	5.0億円	-61.6% (-8.2億円)
	(A) 26/2期1Q：MAL売却益 (+5.3億円) を計上	(B) 27/2期1Q：Seven Seas買収費用 (-2.2億円) を計上	(A+B) 左記により (-7.5億円) の影響

通期業績進捗率

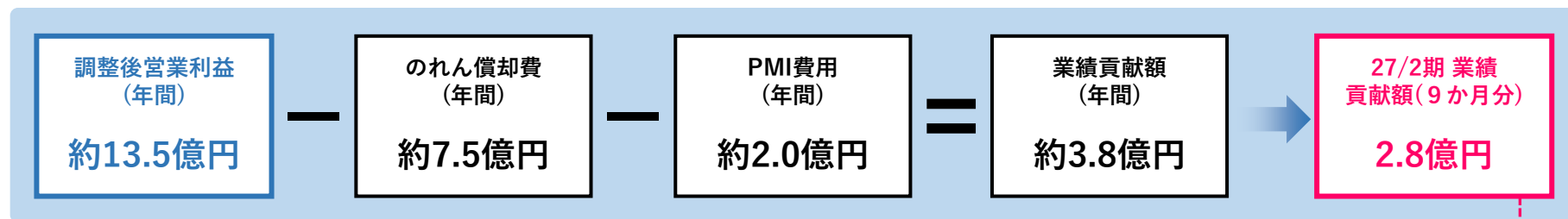
- ✓ 電子書籍流通事業において、長期休暇を含む2Qと4Qは、例年売上高・利益額とも多くなる季節性
- ✓ 2QからSeven SeasのPL連結を開始
- ✓ 1QはSeven Seasの業績寄与はなかったものの、2Q累計の売上高・EBITDA・営業利益は50%に迫り、期初想定を上回る進捗
- ✓ 当期純利益については、3QにFirebrandグループの売却に係る特別利益を計上予定(15.6億円)。業績予想の上方修正を実施(後述)



Seven Seasの業績貢献額の期初想定と進捗率

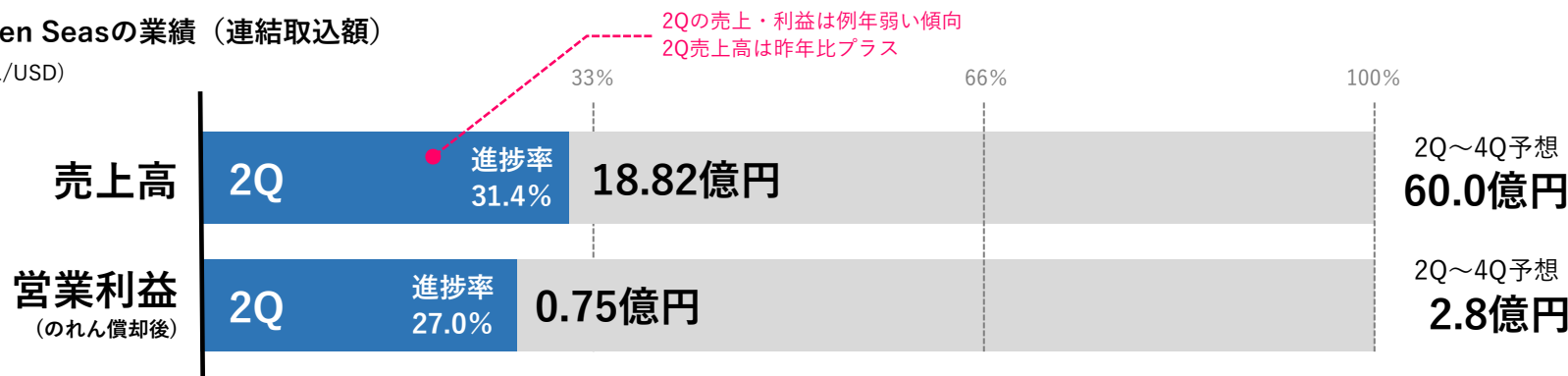
- ✓ 2QよりSeven SeasのPLを連結。算出の前提は以下の通り
- ✓ 例年2Qは1Q対比で売上・利益が減少する傾向

■営業利益の期初想定 (¥150/USD)



■Seven Seasの業績 (連結取込額)

(¥158.61/USD)



事業ポートフォリオの見直し

- ✓ 資本コストや資本収益性を意識しながら規律ある投資と効率的な事業運営を進めるべく、近年売却を中心とした事業ポートフォリオの見直しを推進
- ✓ 26年10月にFirebrandグループの売却を実施。成長領域に経営リソースを集中させ、グループ全体の収益力を高めていく

	子会社	持分法適用会社	関連会社未満・事業
25/2期	撤退 ジャイブ (紙書籍編集事業からの撤退) 売却 エブリスタ	—	売却 PUBNAVI 売却 音楽事業 売却 Creatubbles
26/2期	精算 ジャイブ 売却 アルトラエンタテインメント	売却 MyAnimeList 売却 PUBFUN	売却 StorySoop 売却 MediBang 売却 WCS
27/2期	2026年3月買収 Seven Seas Entertainment 2026年10月売却 Firebrandグループ	—	売却 Contents Lab. Blue

----- 国際事業における選択と集中を推進

- 成長戦略に基づき更なる経営資源配分の最適化を実施
- 海外においては、米国のSeven Seas Entertainment, LLCを軸とした日本出版コンテンツの海外展開強化に注力

業績予想の上方修正

- ✓ Firebrandグループの売却に伴い、3Qに特別利益を計上する見込みであり、当期純利益について上方修正を実施
- ✓ 3QからFirebrandグループが連結から除外されるものの、直近の業績動向を鑑み売上・EBITDA・営業利益については据え置き

	4/13 期初予想	10/14 修正予想	差異
売上高	1,180.0億円	1,180.0億円	—
EBITDA	41.0億円	41.0億円	—
営業利益	24.0億円	24.0億円	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	12.0億円	27.6億円	+15.6億円※2 (+130.0%)

2026年10月5日
Firebrandグループを売却



3Qに特別利益を計上予定

15.6億円

①譲渡価額：31.5億円
(20百万ドル)



②売却原価・譲渡関連費用等
：15.9億円

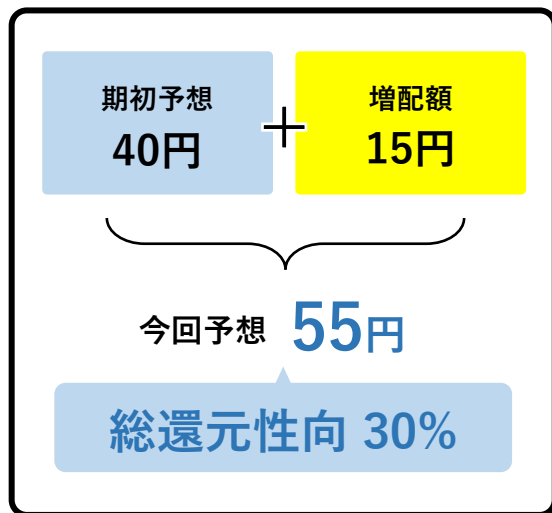
※1 ¥157.96/USD (2026年10月5日)

※2 税務上の株式簿価が譲渡価額を上回り課税が発生しない見込みのため、特別利益計上額と同額の当期純利益の上方修正（+15.6億円）を実施

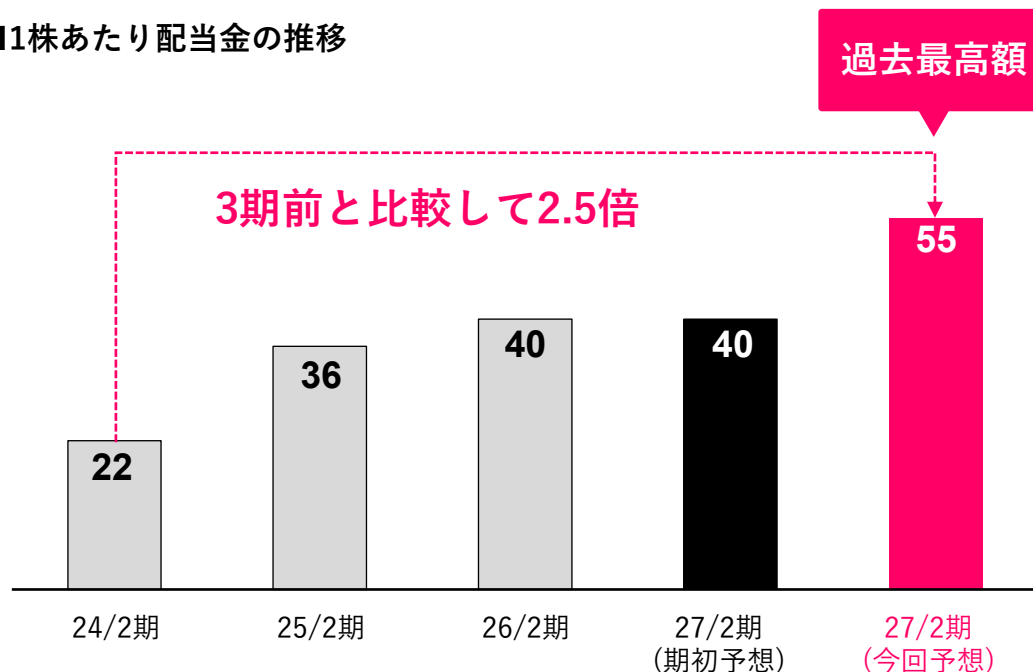
配当予想の上方修正

- ✓ 特別利益計上による業績予想の上方修正を踏まえ、1株当たり55円へ増配を予定
- ✓ 当社の還元方針である総還元性向30%以上は維持
- ✓ 1株当たり配当金は過去最高額となる見込み

■27/2期 期末配当予想の上方修正



■1株あたり配当金の推移



※ 総還元性向 = (配当金支払総額 + 自己株式取得総額) / 親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別売上高

報告セグメント※1

単位：百万円

	電子書籍流通事業	戦略投資事業		26/2期 2Q累計	27/2期 2Q累計	前年同期比
		メディアドゥ	子会社			
取次	電子書籍取次事業			49,743	52,263	+ 5.1% (+2,519)
書籍・雑誌出版			日本文芸社 Seven Seas	1,004	2,678	+ 166.6% (+1,673)
Webサービス運営	まんがセゾン	オーディオブック 電子図書館	フライヤー	1,368	1,316	- 3.8% (-51)
出版業界向け ソリューション			Firebrand NetGalley Supadü	1,407	1,462	+ 3.9% (+54)
その他			MD-i※2 がんばろう徳島	339※3	596※4	+ 75.7% (+257)
合計				53,864	58,317	+ 8.3% (+4,453)

提供サービスの種類※1

※1 報告セグメント・提供サービスの種類の内訳に記載の事業については、その分類に該当する代表的な事業を抜粋して掲載

※2 MD-i=Media Do Internationalの略

※3 26/2期はアルトラエンタテインメントの売上高を含む

※4 26/2期3Qより連結開始のAIStep、および27/2期1Qより連結開始のZealoxを含む

02

業績推移

Earnings Trends

2.業績推移

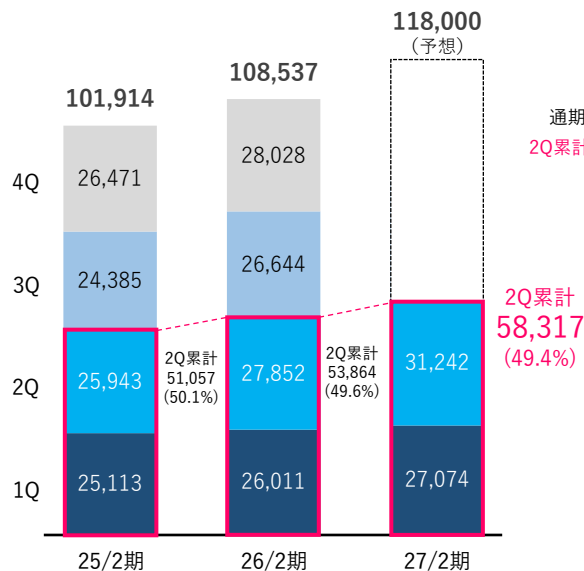
連結業績

概況

- ✓ 売上高は、主に電子書籍流通事業の成長とSeven seasのPL連結開始によりYoYで増収
- ✓ 営業利益は、電子書籍流通事業において高利益率のサービスが26/2期3Qに終了したこと、日本文芸社の26/2期3Qからの業績不振といった影響があったものの、電子書籍流通事業の好調に伴い期初想定を上回る着地。2Q単体ではYoYで増益

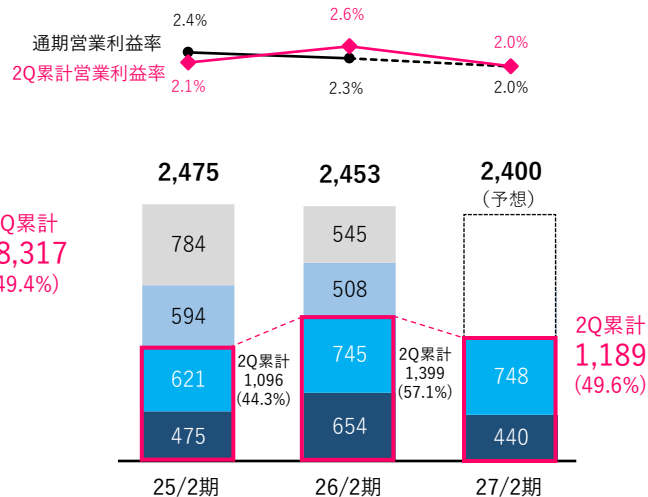
売上高

単位：百万円



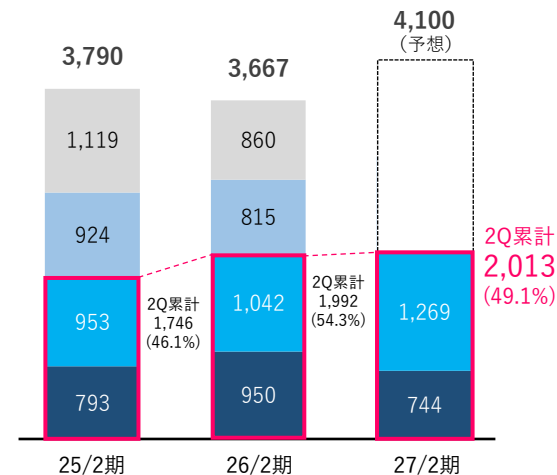
営業利益

単位：百万円



EBITDA

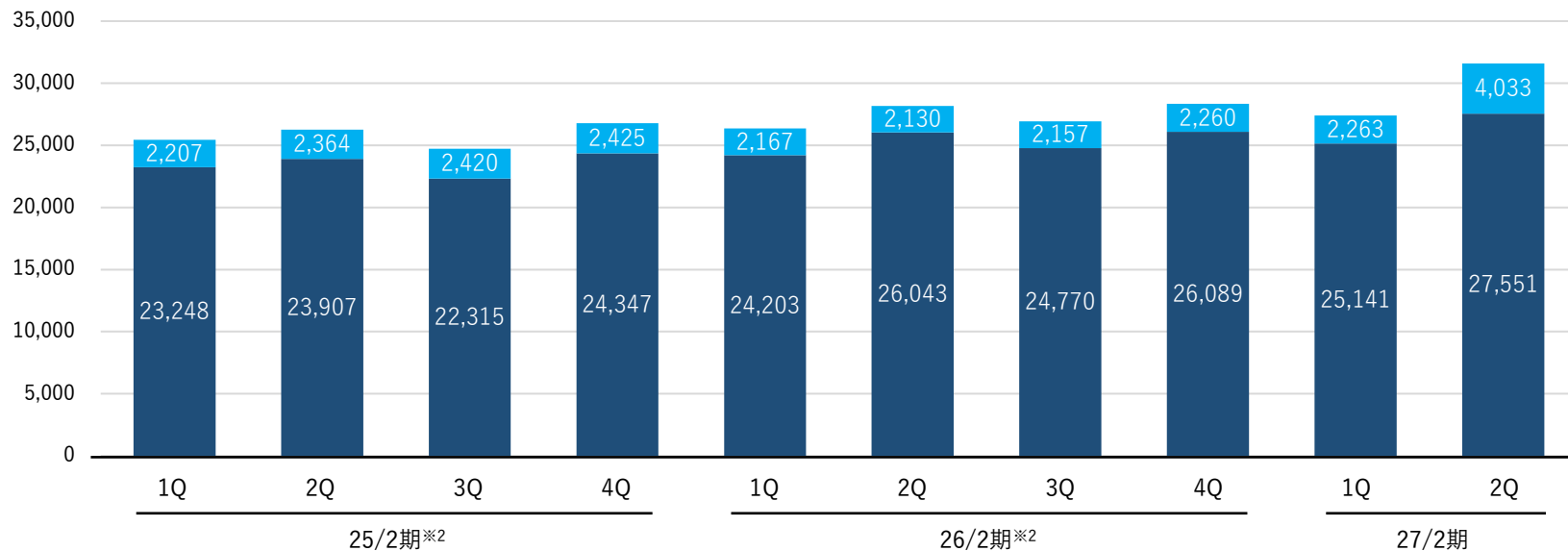
単位：百万円



売上高推移（セグメント別）※1

- ✓ 電子書籍流通事業は昨年7月に獲得した大型の新規商流による増収効果は一巡したものの、キャンペーンやアニメ化作品の好調によりYoYで増収
- ✓ 戦略投資事業には2QよりSeven Seasの売上が加わり、売上が増加

単位：百万円 ■ 電子書籍流通事業 ■ 戦略投資事業

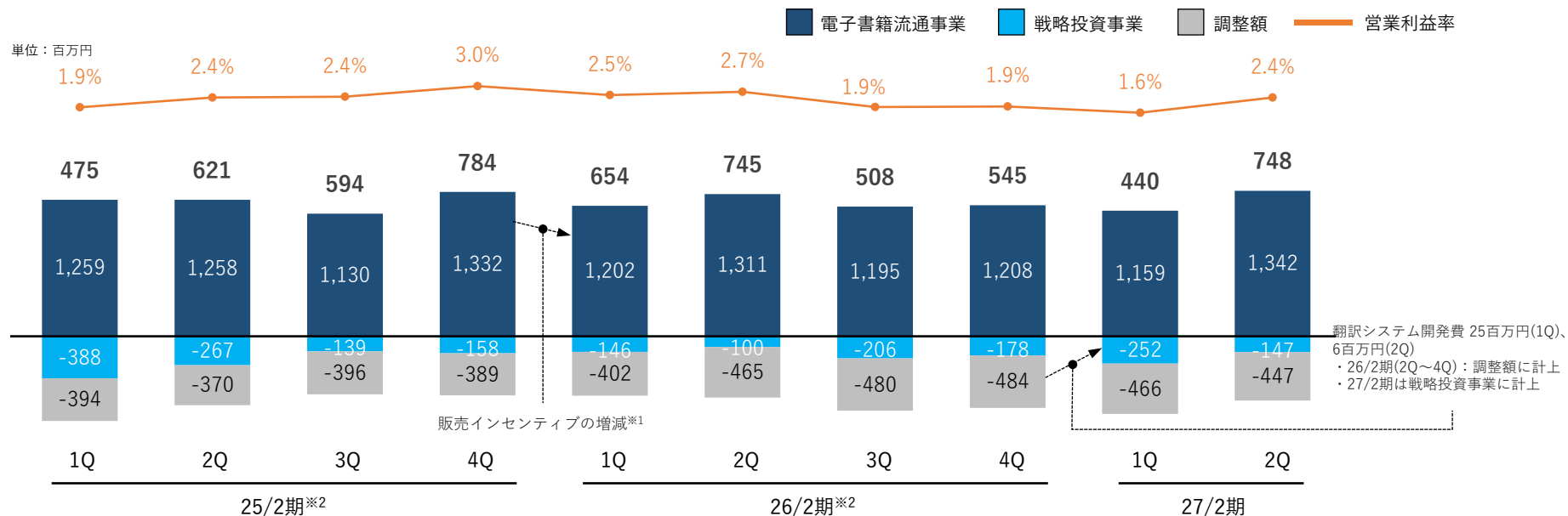


※1 売上高は、セグメント間取引等の調整額を含まない金額。各四半期の調整額については、P.28に記載

※2 26/2期より戦略投資事業の売上高に「がんばろう徳島（プロバスケットボールチーム「徳島ガンパロウズ」の運営会社）」を含めた。グラフにおいては25/2期実績も修正

営業利益推移（セグメント別）

- ✓ 26/2期3Qの利益率の悪化は、電子書籍流通事業において利益率の高いサービスが終了した影響
- ✓ 27/2期2Qより、Seven SeasのPL連結を開始し、戦略投資事業の赤字幅が縮小
- ✓ 翻訳システム開発費は、26/2期2Q～4Qは調整額（本部費用）、27/2期は戦略投資事業に計上

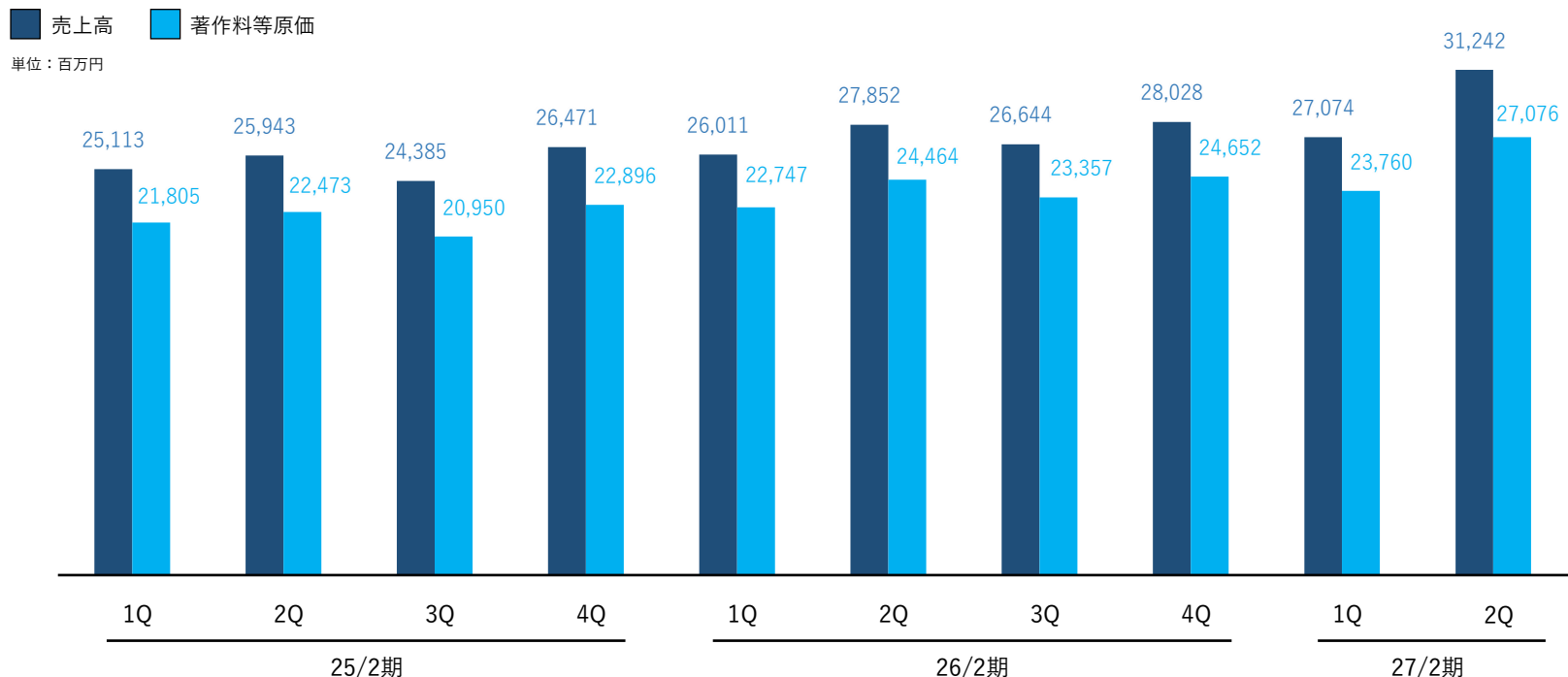


※1 販売インセンティブの増減：特定の電子書店との間で未確定となっていた売上の確定精算完了によるもの

※2 26/2期より調整額から戦略投資事業に「がんばろう徳島（プロバスケットボールチーム「徳島ガンバローズ」の運営会社）」をセグメント変更。グラフにおいては25/2期実績も修正

著作権等原価推移※

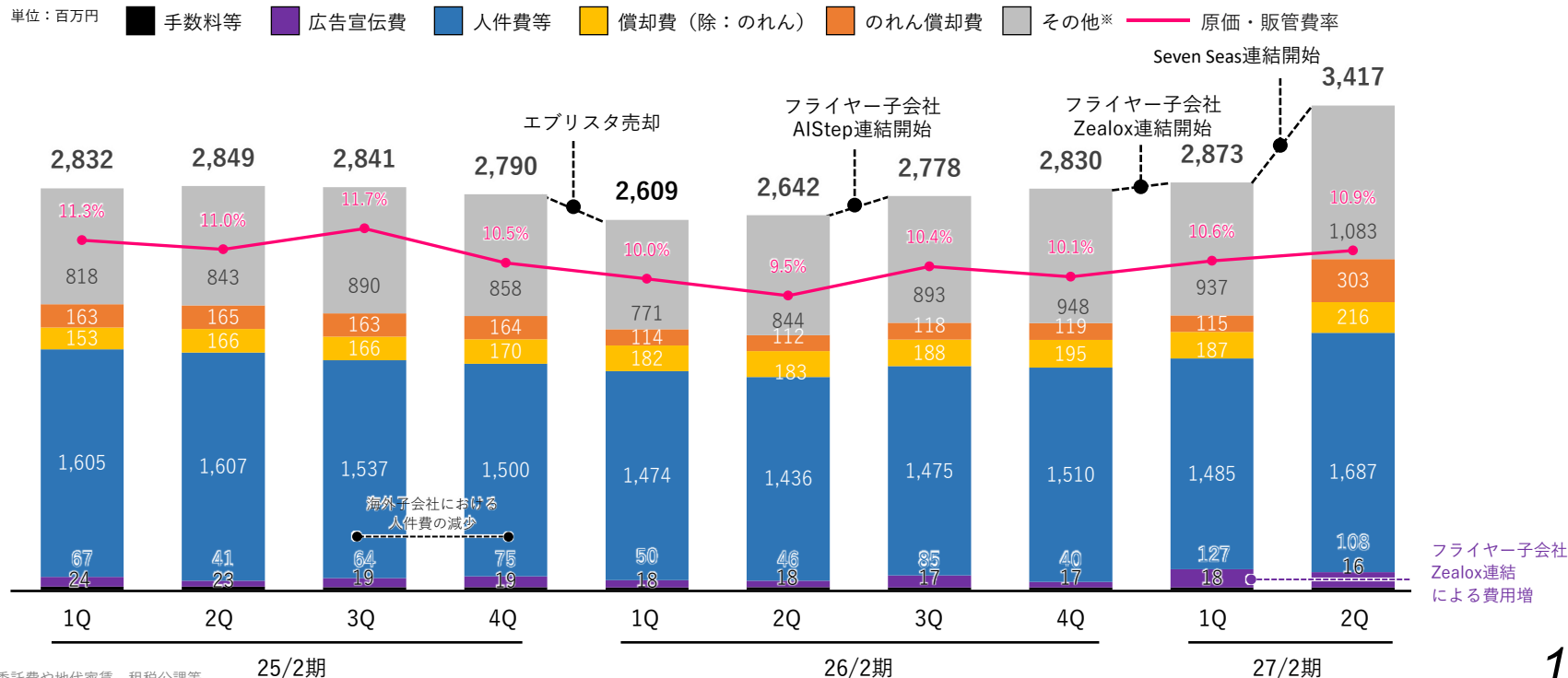
✓ 売上高の増減に伴い著作権等原価も変動



※ 電子書籍流通事業で発生する著作権等原価とSeven Seas・日本文芸社で計上される印刷製本原価の合計値推移を記載

売上原価・販管費推移（著作権等以外）

- ✓ 27/2期2Qより売上原価・販管費が増加しているのは、主にSeven SeasのPL連結を開始したことによるもの
- ✓ 「その他」には、26/2期2Qより翻訳システムの開発費を計上。4QはフライヤーによるZealoxの買収関連費用を計上
- ✓ 3Qよりフライヤー子会社AIStepの連結開始、27/2期よりフライヤー子会社Zealoxの連結開始



※ その他：業務委託費や地代家賃、租税公課等

2.業績推移

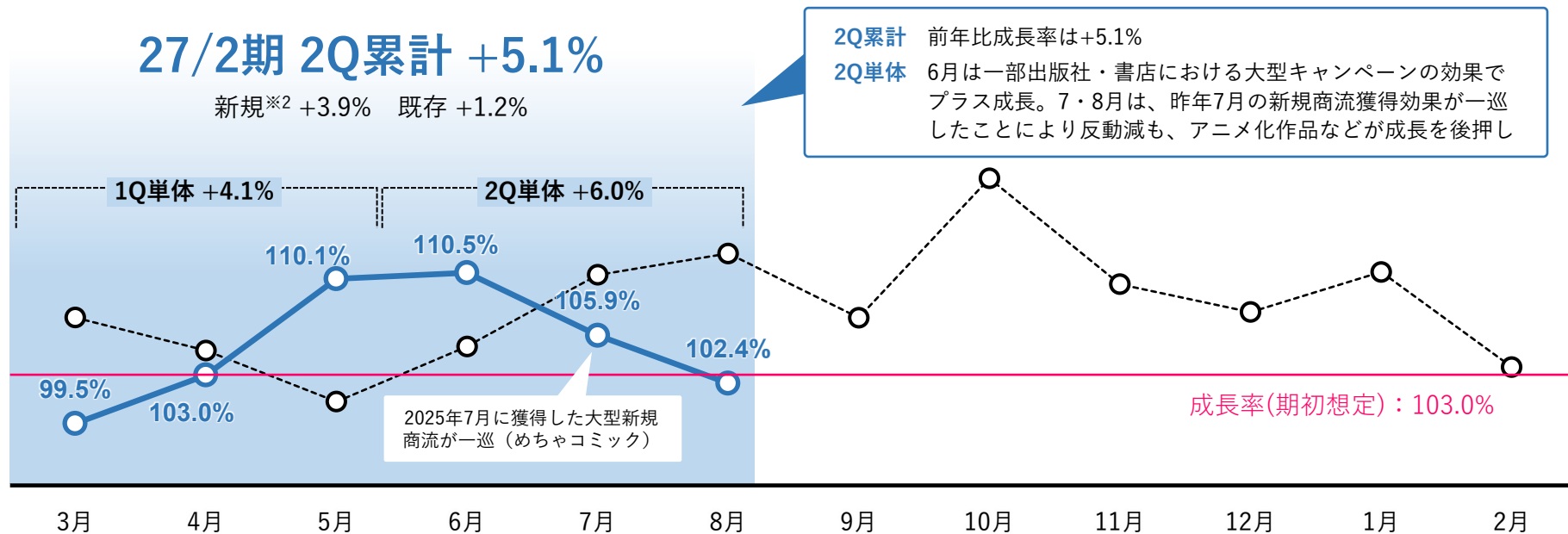
電子書籍流通事業

売上高前年比成長率※1

✓ 各月の成長率は人気作品の新刊刊行やアニメ化、大型キャンペーンの動向に左右される傾向

✓ 2Q累計の成長率+5.1%は、期初想定成長率+3.0%を上回る水準

売上高前年比成長率の推移 --○-- 2026年2月期成長率 —○— 2027年2月期成長率



※1 電子書籍流通事業における取次事業のみの数値を記載

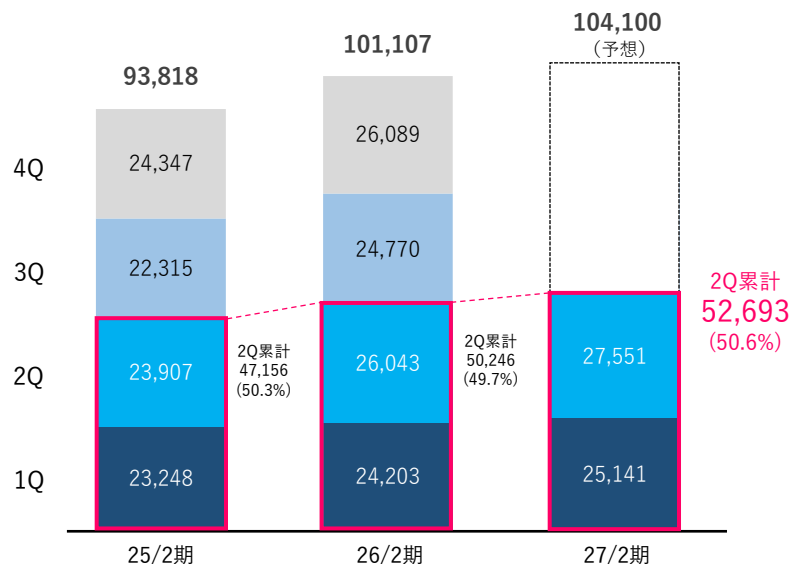
※2 新規商流成長率：前年比成長率のうち新規商流が占める寄与度

売上高・営業利益推移

- ✓ 売上高は、キャンペーンやアニメ化作品が好調であったことによりYoYで増収
- ✓ 営業利益は、高利益率サービスの終了（26/2期3Q）という減益要因があったものの、期初想定を上回る売上増加によってこれを乗り越え、YoYで増益を達成

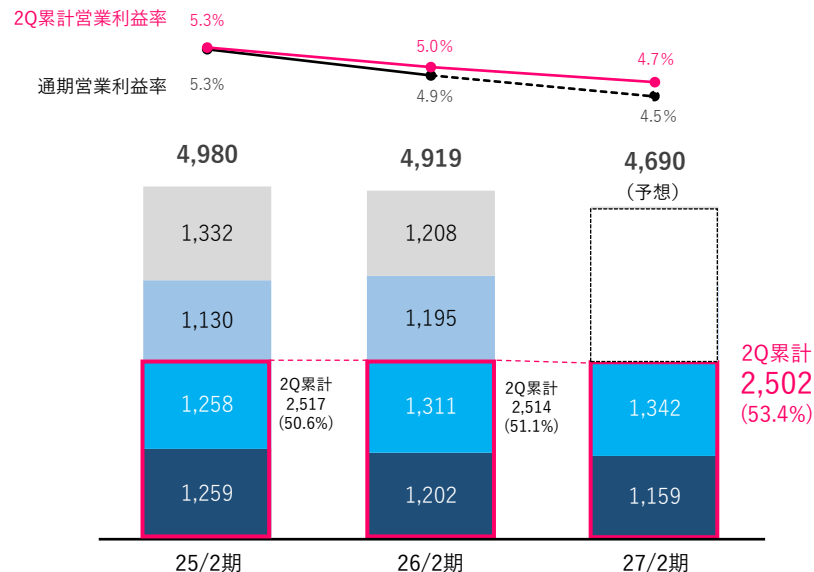
売上高

単位：百万円
カッコ内は進捗率



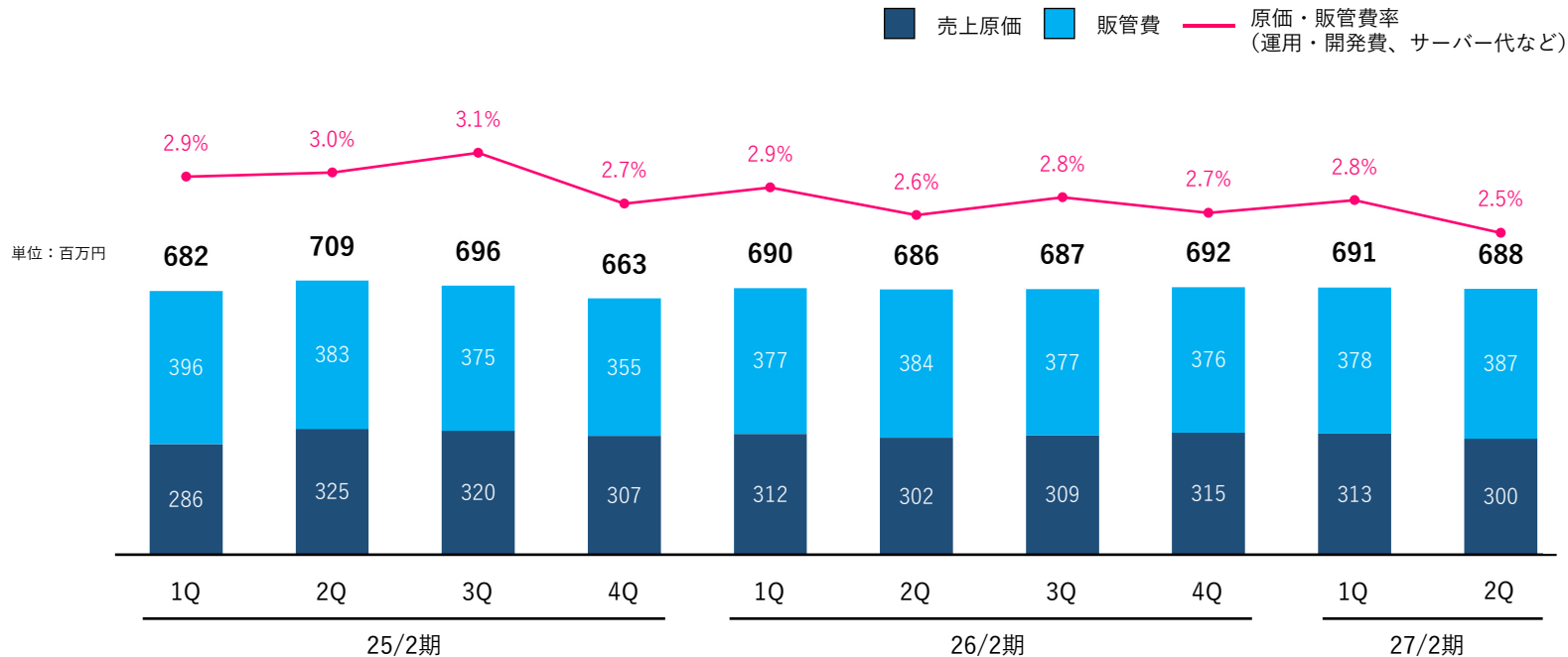
営業利益

単位：百万円
カッコ内は進捗率



コスト構造（著作権料等を除く原価・販管費）

✓ 著作権料等を除く原価・販管費率は、業務効率化の継続により、原価・販管費の絶対額・率ともに水準を維持



※ 25/2Q売上原価の増加要因：25/2期2Q：メンテナンス等の運用が中心となったことから、エンジニア人件費の資産振替額が減少

2.業績推移

戦略投資事業

戦略投資事業の主なサービス概要

- ✓ 戦略投資事業では、中長期における注力領域を事業として構成
- ✓ 主軸である電子書籍流通事業を基盤に、メディアドゥグループの新たな成長ドライバーの早期確立を目指す

戦略投資事業は、以下3領域で構成

日本コンテンツの海外展開

国際事業



米サンディエゴに位置し、
海外取次事業などを担う
グループの国際事業拠点



独立系として英語圏最大の
マンガ翻訳出版社



大手BIG4をはじめ多くの欧米出版社が導入。出版ワークフローから販売管理DX、マーケティング、ECサイト構築にいたるシステムの提供・運用支援を通じて、出版ビジネスの成長を支える

2026年10月 譲渡

IP創出・育成／企画・出版

IP・ソリューション事業



実用書やコミック、小説、雑誌
など幅広いジャンルを手掛ける
70年以上の歴史をもつ出版社

オーディオブック事業

Amazon Audibleにて
作品を配信



書籍の要約コンテンツを
提供するサービス「flier」
を運営

Sustainability Creation

SC事業



男子プロバスケットボール
クラブ「徳島ガンバロウズ」
の運営



起業家支援
「徳島イノベーションベース（TIB）」
の運営



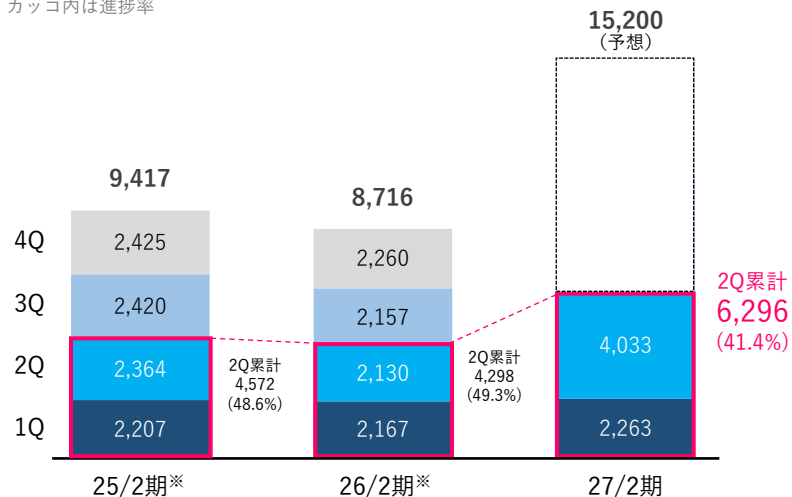
TIBをモデルケースに
「xIB JAPAN」で日本全国へ拡大

売上高・営業利益推移

- ✓ 2QよりSeven SeasのPL連結を開始
- ✓ 営業利益はSeven Seasの貢献はあるものの、日本文芸社・Firebrandグループの予算未達が重荷となり、計画に対し低調な進捗

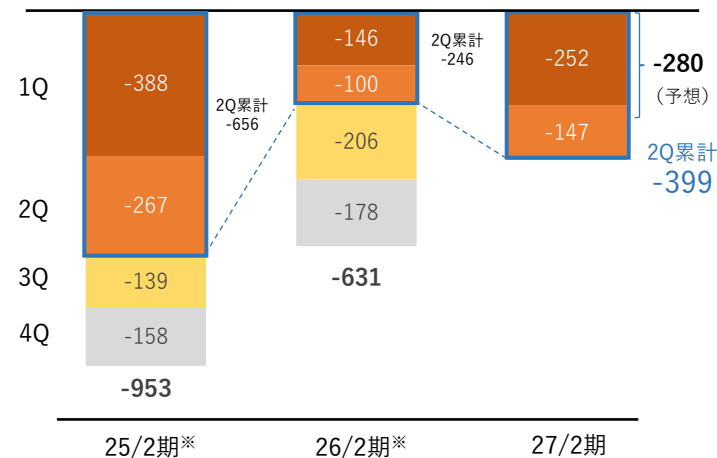
売上高

単位：百万円
カッコ内は進捗率



営業損益

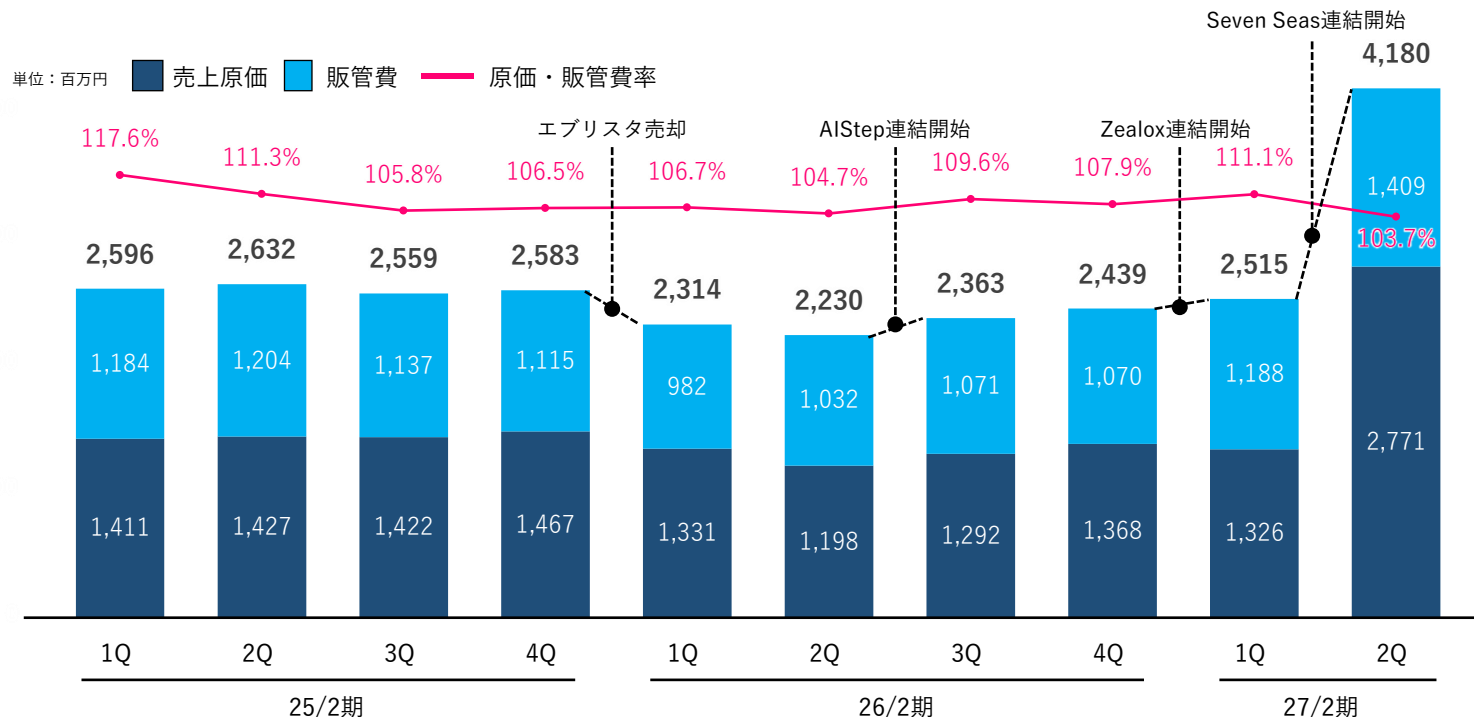
単位：百万円



※ 26/2期より戦略投資事業に「がんばろう徳島（プロバスケットボールチーム「徳島ガンパロウズ」の運営会社）」を含めた。グラフにおいては25/2期実績も修正

コスト構造

- ✓ 27/2期2Qより、Seven Seasが連結開始に伴い費用が増加したものの、原価・販管費率は減少
- ✓ 27/2期1Qより、フライヤー子会社Zealoxが連結開始

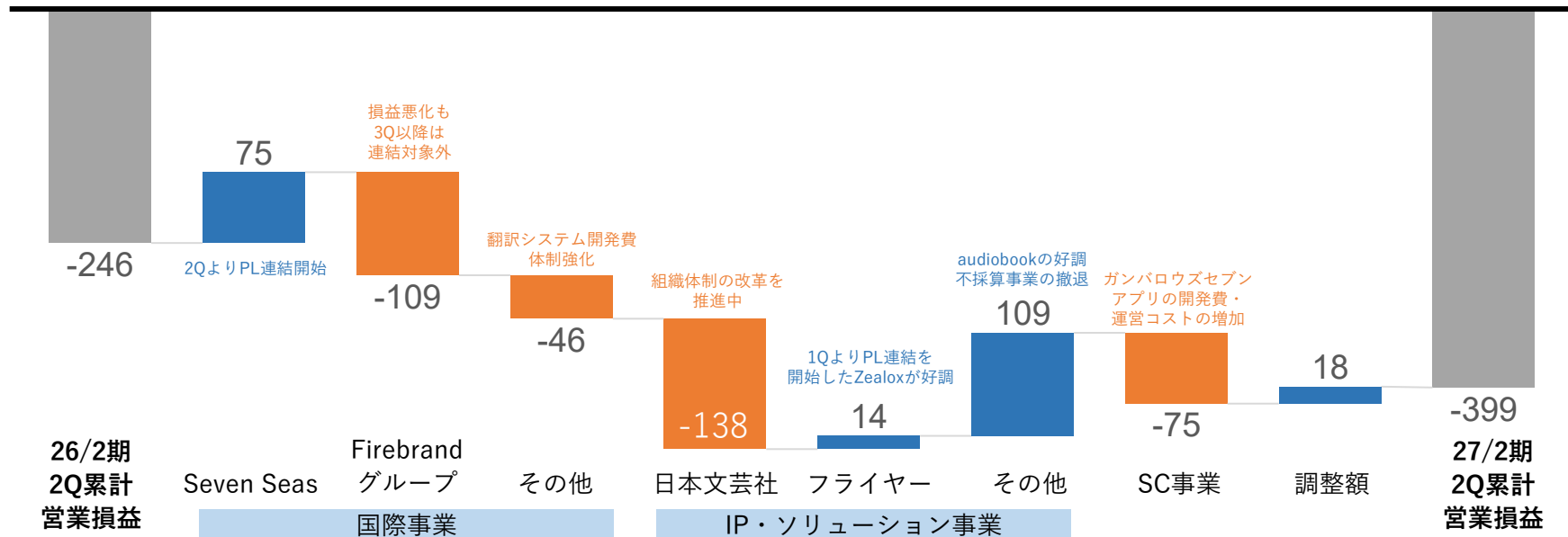


※ 26/2期より戦略投資事業に「がんばろう徳島（プロバスケットボールチーム「徳島ガンパロウズ」の運営会社）」を含めた。グラフにおいては25/2期実績も修正

営業利益 前年同期比較

- ✓ 日本文芸社は26/2期3Qからの損益悪化は継続中。組織体制の改革を実施し、コストの削減を推進中
- ✓ 減益傾向だったFirebrandグループは10月5日に売却済みのため、3Q以降の業績には影響しない
- ✓ 不採算事業の縮小やAudiobookの好調によりIP・ソリューション事業の「その他」が改善

単位：百万円

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計


P/L

単位：百万円

	26/2期								27/2期			
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q	
売上高 ※1	26,011		27,852		26,644		28,028		27,074		31,242	
電子書籍流通事業	24,203	93.0%	26,043	93.5%	24,770	93.0%	26,089	93.1%	25,141	92.9%	27,551	88.2%
戦略投資事業	2,167	8.3%	2,130	7.6%	2,157	8.1%	2,260	8.1%	2,263	8.4%	4,033	12.9%
売上原価、販売管理費	25,357	97.5%	27,106	97.3%	26,135	98.1%	27,483	98.1%	26,634	98.4%	30,493	97.6%
著作料・その他原価 ※2	22,747	87.5%	24,464	87.8%	23,357	87.7%	24,652	88.0%	23,760	87.8%	27,076	86.7%
手数料等	18	0.1%	18	0.1%	17	0.1%	17	0.1%	18	0.1%	16	0.1%
広告宣伝費	50	0.2%	46	0.2%	85	0.3%	40	0.1%	127	0.5%	108	0.3%
人件費等	1,474	5.7%	1,436	5.2%	1,475	5.5%	1,510	5.4%	1,485	5.5%	1,687	5.4%
償却費等(除：のれん)	182	0.7%	183	0.7%	188	0.7%	195	0.7%	187	0.7%	216	0.7%
のれん償却費	113	0.4%	112	0.4%	118	0.4%	119	0.4%	115	0.4%	303	1.0%
その他	771	3.0%	844	3.0%	893	3.4%	948	3.4%	937	3.5%	1,083	3.5%
EBITDA	950	3.7%	1,042	3.7%	815	3.1%	860	3.1%	744	2.7%	1,269	4.1%
営業利益	654	2.5%	745	2.7%	508	1.9%	545	1.9%	440	1.6%	748	2.4%
経常利益	669	2.6%	769	2.8%	533	2.0%	575	2.1%	203	0.8%	747	2.4%
税金等調整前当期純利益	1,181	4.5%	769	2.8%	533	2.0%	18	0.1%	151	0.6%	781	2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	818	3.1%	508	1.8%	306	1.1%	185	0.7%	129	0.5%	379	1.2%

※1 電子書籍流通事業、戦略投資事業に属さない調整額：26/2期1Q -358百万円、2Q -321百万円、3Q -283百万円、4Q -321百万円、27/2期1Q -329百万円、2Q -342百万円
※2 電子書籍流通事業にかかる金額：26/2期1Q 22,310百万円、2Q 24,045百万円、3Q 22,887百万円、4Q 24,188百万円、27/2期1Q 23,290百万円、2Q 25,520百万円

B/S

単位：百万円	26/2期末	27/2期 2Q末	増減	主たる変動要因
流動資産	44,001	47,851	3,850	-
現金及び預金	14,014	14,866	852	-
受取手形、売掛金及び契約資産	27,764	28,928	1,164	-
固定資産	12,924	23,662	10,738	-
有形固定資産	469	438	-31	-
ソフトウェア	615	620	5	-
のれん	4,029	11,344	7,315	2026年3月のSeven Seas買収に伴う増加
投資有価証券	5,714	5,667	-47	-
繰延税金資産	382	3,468	3,086	2026年3月のSeven Seas買収に伴う増加
資産合計	56,926	71,514	14,588	-
流動負債	35,686	50,380	14,694	-
支払手形及び買掛金	31,022	33,480	2,458	-
短期借入金および1年内返済予定の長期借入金	1,473	13,713	12,240	2026年3月のSeven Seas買収に伴う増加
固定負債合計	2,017	1,490	-527	-
長期借入金	1,228	763	-465	-
負債合計	37,704	51,870	14,166	-
株主資本合計	17,849	17,793	-56	-
資本金	6,019	6,044	25	-
資本剰余金	5,961	5,986	25	-
利益剰余金	5,916	5,811	-105	-
自己株式	-48	-48	0	-
その他包括利益累計額合計	1,185	1,681	496	-
新株予約権	22	19	-3	-
非支配株主持分	165	149	-16	-
純資産の合計	19,221	19,643	422	-
負債・純資産合計	56,926	71,514	14,588	-

03

成長戦略

Growth Strategy

中長期成長戦略の軸は3つ

国内電子書籍
流通事業

シェア拡大



出版業界のインフラとなる
ための投資

海外展開

ポジション
確立



世界最大の翻訳出版社
Seven Seasの買収・PMI

SC事業

ポジション
構築



地域との信頼関係を基盤に
収益事業として確立・成長

各事業が目指す姿と成長フェーズ

①戦略立案

②挑戦

③ポジション
確立

④シェア
No.1

⑤業界貢献の
最大化

概況

国内電子書籍 流通事業					2006年の参入から20年、すべての出版社との取引を行うポジションと国内No.1シェアを確立。今後、シェア拡大と貢献価値の向上により、業界へのさらなる貢献を目指す
海外展開 M [©] RE CONTENT for M [©] RE PEOPLE!			PMIの実施		Seven SeasのPMIを完遂するとともに、あらゆる出版社のコンテンツの翻訳出版を加速することで、日本の本を世界中に届けるNo.1の企業へ
SC事業 Sustainabi ity Creation					起業家の挑戦とスポーツの熱量を、地域の活力へ。徳島を起点としたモデルを確立するため、他団体との連携を強化し、周囲を巻き込みながらポジション確立を目指す

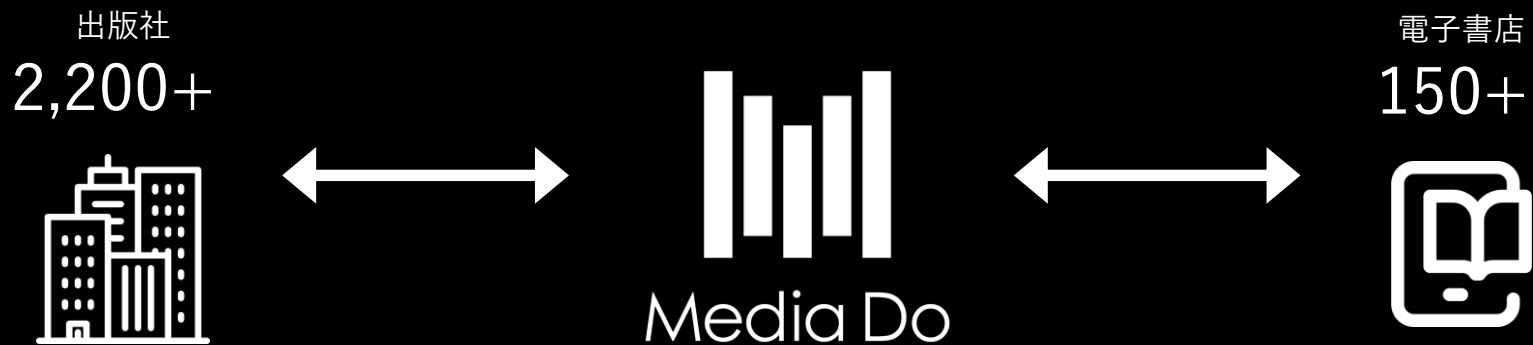
2026年3月、海外マンガ市場における世界最大の翻訳出版社、Seven Seasを買収

- 2026年4月、xIB × B.LEAGUE連携協定を締結
- 2026年6月、xIB × 福岡証券取引所連携協定を締結

3.成長戦略

国内電子書籍流通事業

国内出版社からコンテンツが集まり続ける 圧倒的な信頼とポジションを確立



出版社

2,200社以上

新規登録コンテンツ数
年間約92万点

流通総額

世界第2位

1,930億円

電子書店

150店以上

ほぼすべての電子書店

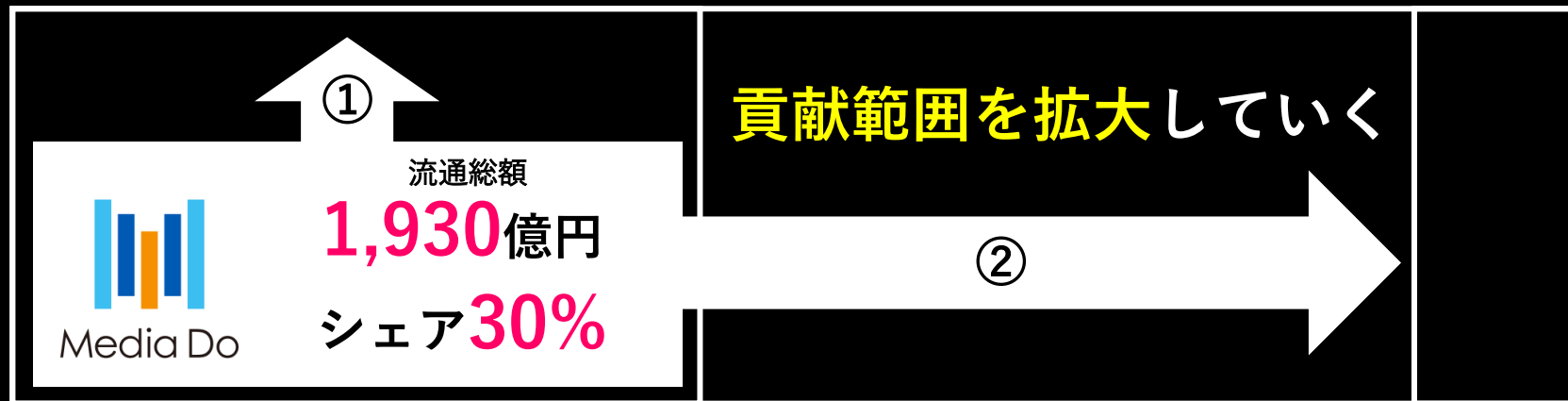
国内最大手である当社の市場シェアはまだ30%
さらなるシェア拡大を目指す

電子書籍市場 **6,600**億円

取次経由 40%

直接取引 50%

その他 10%



システム連携により運用の効率化だけでなく 書店向けの独自開発を強化していく

	①データ納品に関する開発	②販促・効率化に関する開発	③書店向け独自開発の強化
事例① A書店	2024年 ✓ 試し読みに関する管理機能追加	2025・2026年 ✓ 連載許諾のAPI化 ✓ 連載キャンペーン機能 ✓ 連載キャンペーンの条件変更	
事例② B書店		2024・2025年 ✓ キャンペーン修正への対応 ✓ 通知・登録項目の拡充 ✓ キャンペーン情報のAPI連携	2026年 ✓ ジャンル判定用キーワード提供 ✓ 巻ごとのレーティング別表現内容チェック ✓ 先行配信作品の識別フラグ

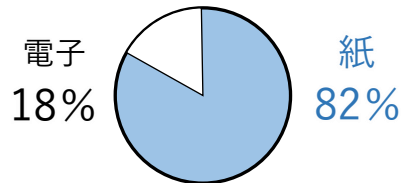
3.成長戦略

海外展開



Seven Seasは、英訳マンガ・アジア書籍の 紙書籍ラインナップで**世界最大**の出版社

FY25 売上構成



売上高 : \$50M (79億円)
営業利益 : \$9M (14億円)

紙書籍は
北米最大手出版社が流通



Penguin
Random
House

年間新刊タイトル数

紙書籍のラインナップ
世界最大

約**1,000**タイトル

メディアドゥグループは本の取次から、**本の商社**へ
M^{CO}RE CONTENT **for** M^{CO}RE PEOPLE!

メディアドゥとSeven Seasの強みを掛け合わせ 売上・事業規模の最大化を目指す



メディアドゥとSeven Seasが築いてきた出版社との
信頼関係や貢献力をもとに売上・事業規模の最大化を目指す

**A. 許諾
獲得数**

メディアドゥの
国内出版社との信頼関係



**B. 出版
タイトル数**

Seven Seasの
コンテンツの目利き力



C. 販売単価



D. 販売部数

=

**売上・事業
規模の最大化**

メディアドゥとの連携で**時間短縮**

許諾獲得数と出版タイトル数を
スピーディーに拡大

高単価の作品も戦略的に出版

高価格本も発売から7か月で
2万点以上の売上を記録

The Scum Villain's Self-Saving System: Ren Zha Fanpai Ziju Xitong
(Deluxe Hardcover Novel) Box Set (\$ 139.99 / 22,398円)

2026年1月～6月の売上高は前年比プラスで推移

紙書籍

売上比率

前年比売上高成長率

約80% + 6.1%



Danmei※2の高単価な
新刊小説BOXセットが
ヒット
(→詳しくはp.42)

電子書籍・オーディオブック

売上比率

前年比売上高成長率

約20% + 14.7%

人気作品のアニメ化により、既刊本の売上が好調

『Mushoku Tensei:
Jobless Reincarnation』



電子書籍 69点※3
オーディオブック 31点

『Trapped in a Dating Sim:
The World of Otome Games is
Tough for Mobs』



電子書籍 31点
オーディオブック 14点

『Though I Am an Inept
Villainess: Tale of the
Butterfly-Rat Body Swap in
the Maiden Court』



電子書籍 20点

Seven Seasは日本だけではなく、 中国・韓国からも有力な原作を発掘し、市場を開拓

ジャンル	原作国	主な価格帯
① マンガ	日本	13.99ドル (2,238円)
② ライトノベル		15.99ドル (2,558円)
③ Danmei※ ¹	中国	19.99ドル (3,198円)
④ Webtoon※ ²	韓国	21.99ドル (3,518円)

急成長中の市場 ➡
Seven Seasが開拓

高価格帯

※ ¥160/USD

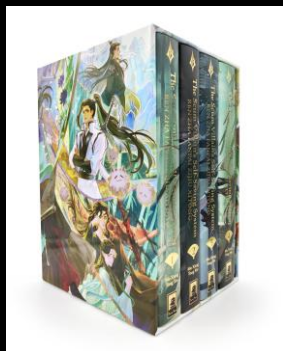
※¹ Danmei : 中国のBL作品

※² Webtoon : 韓国の縦スクロールコミックを、横読みに再編集して出版

2月に販売開始したDanmeiの高価格のBOXセットが大ヒット 2026年度の売上拡大を牽引

Danmei

『The Scum Villain's
Self-Saving System』



4冊
セット

販売価格
139.99ドル
(22,000円超)

1.7倍

Danmeiの主な価格帯
19.99ドル(3,198円)
4冊で79.96ドル(12,793円)

販売部数
(2月17日～9月末)

20,681部

小売価格ベースの
売上

約 **290万**ドル
(4.6億円超)

豪華ハードカバー
BOXセット
2026年2月17日 発売

来年度も人気作品のBOXセットを販売予定
Seven Seasのこれまでの実績によりセット販売が可能

※ ¥160/USD

メディアドゥのノウハウを生かして 出版タイトル数の増加を加速させていく

紙書籍

ライセンス獲得の強化

- ①国内市場に関する
専門知見の共有
- ②コンテンツ獲得に関する
営業人員の強化

電子書籍・オーディオブック

配信書店数・作品数の強化

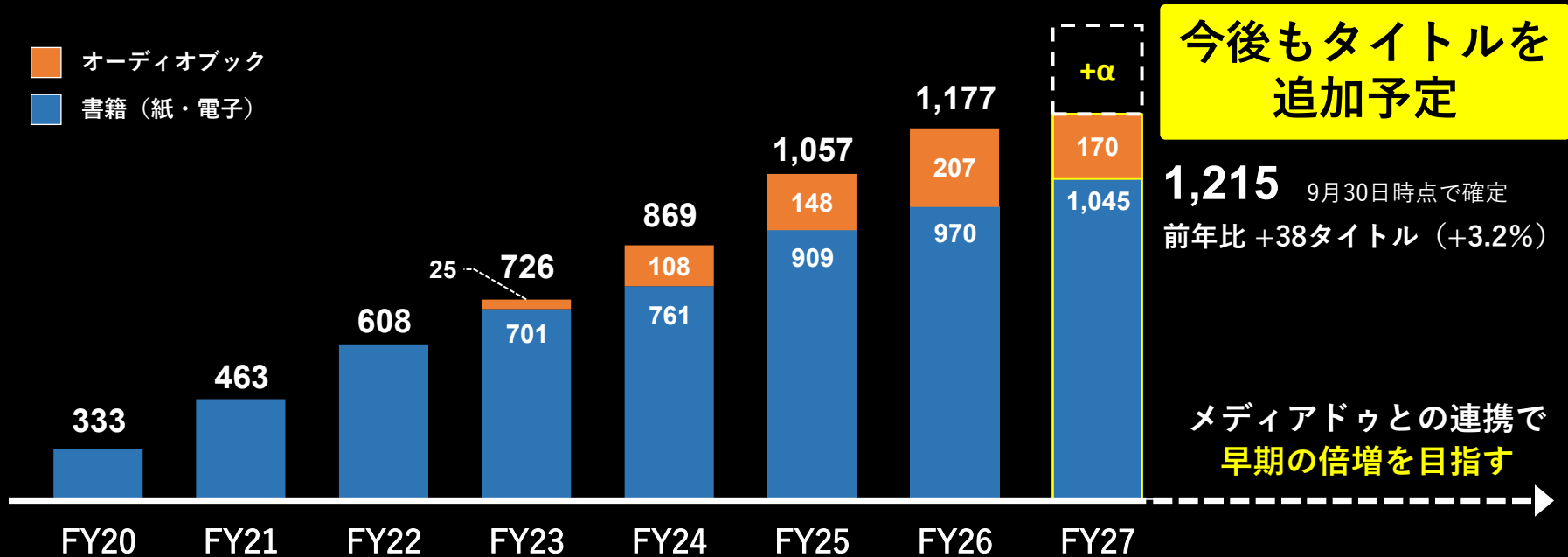
- ①メディアドゥの関係値を活用した
配信書店の拡大

2026年に複数の新規プラットフォームで配信予定

- ②電子書籍配信の
許諾獲得にかかる連携

Seven Seasの取扱いコンテンツ数は年々増加

9月30日時点でFY27は1,215タイトルの刊行が確定



Seven Seasが Anime NYC に出展 新作発表会は満員、人気作品は1日で完売

ANIME NYC Anime NYC 2026

- ✓ アメリカ東海岸最大のアニメイベント（NY）
- ✓ 日系企業も紀伊國屋書店、VIZ Media（小学館・集英社）、Kodansha USA（講談社）、Yen Press（KADOKAWA）、バンダイナムコなど多数出展
- ✓ 限定商品の販売や新作の発表、ファン同士の交流などが行われる

来場者数
17.2万人

企業ブース
450超

8月20日～23日
4日間

Seven Seasも出展

- ✓ セミナー会場では新刊発表会を実施
- ✓ 出展ブースでは176タイトル2,400冊の書籍を販売

新刊発表会の入場率

100%超

420席が満席
立ち見・入場規制も発生

ブース直販書籍

4日間で80%完売

新作を先行販売
一部の人気作品は1日で完売

会場内にはSeven Seasの大型サイン

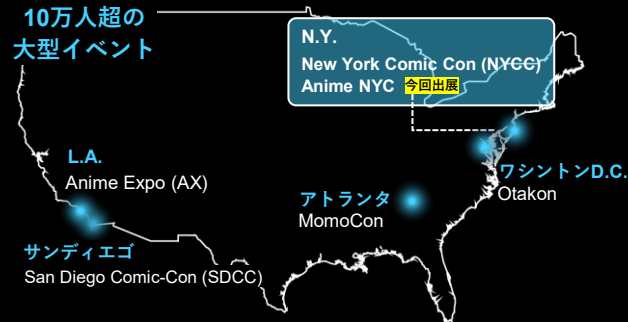


ブースでの書籍販売の様子



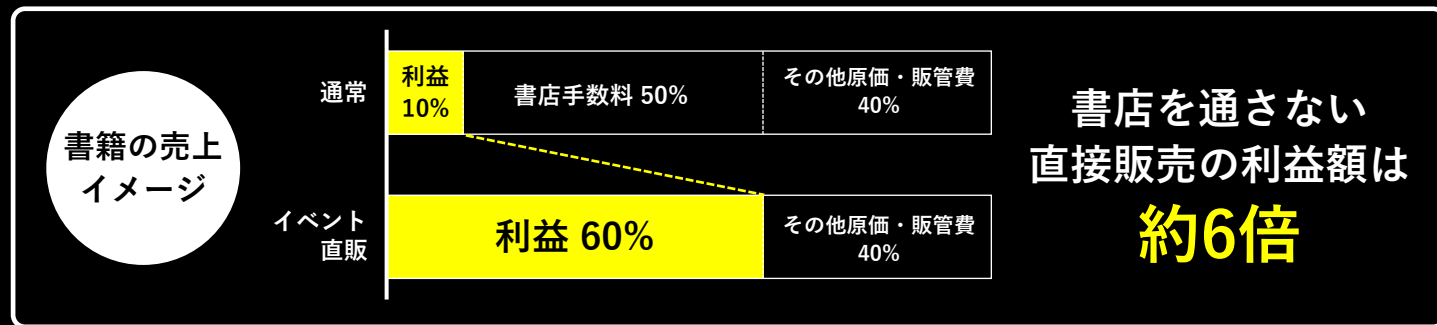
全米では年間を通じて多数のアニメイベントが開催 今後、戦略的なイベント出展による直販の強化を検討

延べ来場者数
10万人超の
大型イベント



イベント名	時期	都市	規模※
1. Anime Expo (AX)	7月上旬	L.A.	42万人
2. New York Comic Con (NYCC)	10月上旬	N.Y.	25万人
3. MomoCon	5月下旬	アトランタ	18万人
4. Anime NYC 今回出展	8月下旬	N.Y.	17万人
5. San Diego Comic-Con (SDCC)	7月下旬	サンディエゴ	13万人
6. Otakeon	8月上旬	ワシントンD.C.	10万人

イベント名	時期	都市
7. Sakura-Con	3月下旬	シアトル
8. Anime Boston	3月下旬	ボストン
9. Anime Central (ACen)	5月中旬	シカゴ
10. FanimeCon	5月下旬	サンノゼ
11. A-Kon	6月上旬	ダラス
12. Anime Weekend Atlanta (AWA)	12月中旬	アトランタ
13. Anime Matsuri	7月中旬	ヒューストン



➡ 戦略的なイベント出展による直販の強化を検討

※1 イベント規模は主催者発表の延べ来場者数。SDCCは実人数のみ公表

※2 出展コスト（ブース賃料・渡航費等）は別途

3.成長戦略

SC事業

現在の事業は大きく分けて2つ

起業家支援



徳島の成功モデルを全国へ

×IB JAPAN

スポーツ事業



2026-2027シーズンより
B.LEAGUE ONEに参入
開幕6戦で5連勝中、西地区1位



①行政 ②金融機関 ③メディア と
その地域にゆかりのあるEOメンバー
との連携により、地域の未来を担う
経営者を支援する仕組み



徳島で生まれたIBを成功モデルに**全国7割の府県で設置へ**

①徳島で立ち上げ



② **✕IB JAPAN** として全国に広がる

設置済：**20IB**、総会員数1,693名

設置準備中：**12IB**

普及率 **70%**
合計 **32IB**



③**2030年には46道府県に設置、会員5,000人へ**

徳島ガンバロウズは今季よりB.LEAGUE ONE参入

開幕戦は立ち見、開幕6戦中5連勝で西地区1位

今季よりB.LEAGUE ONEに参入

①開幕戦の 入場率※100%

- 9/22(火・祝)開催
- 入場者数3,528人



②開幕6戦で5連勝、西地区首位 (2位に2ゲーム差)

B.ONE西地区 順位 (2026年10月13日時点)

順位	チーム名	勝	敗	勝率
1	徳島ガンバロウズ	5	1	.833
2	ベルテックス静岡	3	3	.500
3	ファイティングイーグルス名古屋	3	3	.500
4	トライフーズ岡山	2	4	.333
5	バンビシャス奈良	1	5	.167

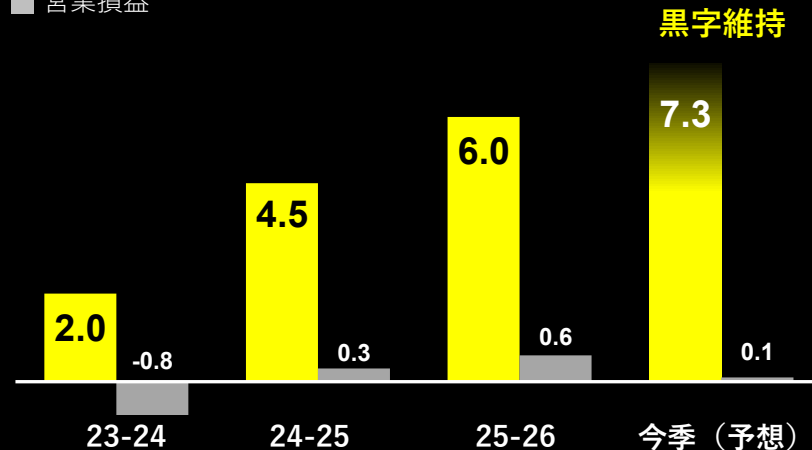
※入場率=入場人数÷会場席数

B.ONE参入に伴い費用増を見込むも黒字を維持

業績の推移 (億円)

■ 売上高

■ 営業損益



ガンバロウズセブンは、単なる予想ゲームではなく、 ファンの熱量を蓄積・可視化するクラブの基盤

ファンの熱量・粘着性を高める仕組み

ガンバロウズセブン
とは？

試合の最初の1～7ゴールの
得点選手を予想。
連続で的中した数に応じて
景品が当たる



予想を
当てたい



景品を
当てたい

分析/予想/投票



- ・クラブや選手を調べる
- ・試合を観る

ファンになる



クラブや選手を
好きになる

ガンバロウズセブンでクラブに新たな収益軸をもたらす

①収益の軸を増やす



ガンバロウズセブンで
新たな収益源を創出

①チケット

②グッズ

③ユース・クリニック

④広告（ユニフォーム・看板）

+ ガンバロウズセブン



※写真はイメージです。 ※当選対象者は1名様です。

※大型広告キャンペーンも実施

徳島トヨペット様から
協賛・景品提供



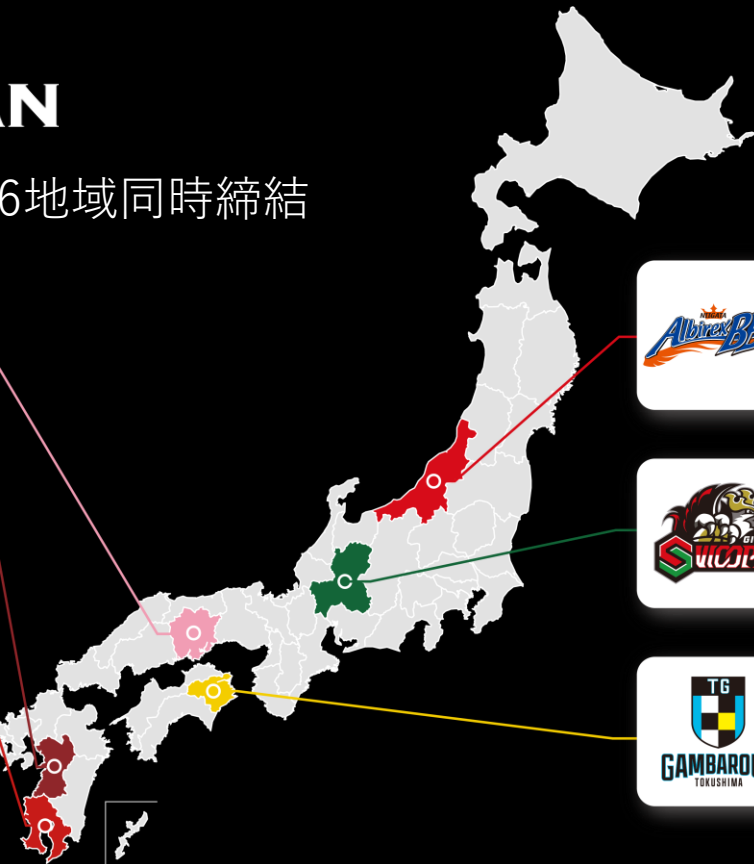
②全国展開へ

- ✓ 他クラブの関心・参入意欲を高める
- ✓ 徳島で収益モデルを確立し、全国への波及を目指す

「スポーツ×経営」で地域の活性化を目指す

B.LEAGUE × xIB JAPAN

2026年9月、xIB × BLG連携協定を6地域同時締結



東京に加え地方でも、個人投資家との接点を広げる 個人投資家向けIRを徹底

これまで、個人投資家向けの施策は未実施



これから

- ①他社IRイベントへの参加
- ②自社主催IRイベント「SC IR」開始

SCiR

Sustainability Creation & Investor Relations

SC IR

開催スケジュール

東京で年1回＋各地域で年数回開催

- ・他社も巻き込み複数社が登壇
- ・ファン株主を増やす

地域
地域の人々に
アプローチ

東京
規模と認知を
拡大

2026年6月
徳島(済)

2027年5月
熊本

2027年
徳島

2026年9月

東京ビッグサイト(済)

2027年

東京(場所未定)

SC IRカンファレンスを東京ビッグサイトで開催 xIB JAPANで培った、起業者・金融機関との強固な信頼関係で実現

2026年9月6日開催
SC IR カンファレンス 上場企業の創業経営者5名が登壇

登壇者（敬称略）

【証券コード：3778】
さくらインターネット(株)



代表取締役社長
田中 邦裕
Kunihiro Tanaka

【証券コード：9416】
(株)ビジョン



代表取締役会長CEO
佐野 健一
Kenichi Sano

【証券コード：5535】
ミガロホールディングス(株)



代表取締役社長
中西 聖
Sei Nakanishi

【証券コード：3962】
(株)チェンジホールディングス



代表取締役兼執行役員社長
福留 大士
Hiroshi Fukudome

【証券コード：3678】
(株)メディアドゥ



代表取締役社長 CEO
藤田 恭嗣
Yasushi Fujita

証券取引所や証券会社がゲスト登壇

ゲスト スピーカー



東京証券取引所
上場部
二出川 聡 氏



みずほ証券
グローバル投資銀行部門
業務推進部長
清水 大吾 氏



会場の様子



パネルディスカッションの様子

統合報告書2026を発刊

これまでの30年を土台に、これからの30年も成長を続けるために



統合報告書2026は、
こちらからご覧いただけ
ます

これまでの30年

企業戦略

電子書籍の取次として、
出版社・電子書店との
信頼関係と流通基盤を築いた

人材組織

創業者が牽引しながら
社員や社外の多くの方々に
支えられた

これからの30年

企業戦略

日本出版業界だけでなく
日本社会に貢献し続ける

人材組織

サクセッション後も
成長し続ける

将来見通しに関する注意事項と会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでいます。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただくようお願いいたします。

<https://mediado.jp/ir>

